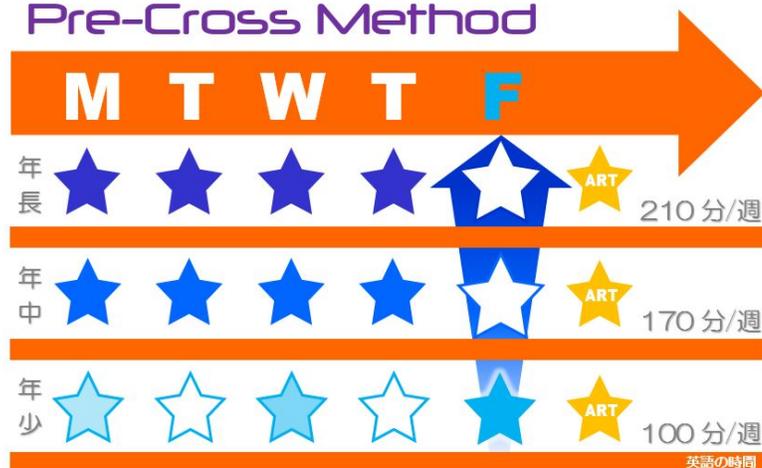


ニューヨーク育英学園全日制的英語教育



バイリンガル教育への挑戦 NY 育英クロスメソッド

NY IKUEI
Pre-Cross Method



NY
IKUEI

M T W T
Cross Method

An Advanced Method to
Nurture Bilingual Students



～ 目次 ～

はじめに: 学園長あいさつ

1. 幼小一貫校としてのバイリンガル教育
 - NY 育英学園全日制的英語教育
 - 幼児部の英語カリキュラム
 - 小学部の英語カリキュラム
 - NY 育英クロスメソッド
～CrossMethod®とは何か
 - 学校と家庭の連携
2. 双方向ソフトランディングのために
 - 現地校へのソフトランディング
 - 日本へのソフトランディング
 - 特別インタビュー企画

ニューヨーク育英学園
米国非営利学校法人 1979年創立

Japanese Children's Society
8 W Bayview Ave.
Englewood Cliffs, NJ
07632 U.S.A.

<http://www.japaneseschool.org>
Tel: +1 (201)947-4832
Fax: +1(201)944-3680
Email: info.nyikuei@gmail.com

はじめに

学園長挨拶



ニューヨーク育英学園は1979年に故丹羽美代子初代園長がニューヨーク州マンハッタンに開設した「日本語によるプレイグループ」を始まりとしています。1980年米国の非営利団体 Japanese Children's Society, Inc. になり日本語名称を「よい子の学園」としました。その後、学校法人田中育英会の援助により、1989年ニュージャージー州イングルウッドクリフスの現校舎に移った後「ニューヨーク育英学園」と改名、現在に至ります。全日制での幼小一貫教育機関(3歳~小6)としては東海岸では唯一の学校です。2018年には創立40周年を迎え、この40年間で学園での経験を土台に日本やその他の国々で活躍している元園児達は3000名を越えています。

学園は日本の文部科学省が定める幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に準拠した教育を日本語にて行なう一方、国際的視野を広め、地域との交流を深めるため、英語教育も重視してまいりました。日本人とアメリカ人のスタッフが一緒になり、子どもたちが興味を感じるプログラムの充実に日々努力しています。

学園は、全日制だけでなく、週末のサタデースクールとサンデースクール、週日のアフタースクール、りんごラーニングセンター、それにマンハッタン校やロングアイランド(ポートワシントン)校、フレンズアカデミー校を開設し、ますます多様化する教育ニーズにこたえてまいりました。これからも、常に地元の人たちに愛される私立日本人学校として、地域に根差した学園運営を目指していく所存です。

ニューヨーク育英学園 学園長 岡本 徹



第一部 幼小一貫校としてのバイリンガル教育

ニューヨーク育英学園全日制の英語カリキュラム

本学園では、1979年創立以来、日本語による教育に力を入れる一方、米国ニューヨーク市近郊にあるという立地条件を最大限に生かし、子どもたちの国際的視野を広め、また地域との交流を深めるため、英語教育にも力を注いできました。

さて、保護者の皆さまがアメリカの学校（現地校）ではなく、本学園の全日制部門の小学部を選び、期待していることは、日本の文部科学省のカリキュラムに基づき、日本の教科書を使った、質の高い日本語での授業を受けることであると、私どもは考えています。本学園全日制部門の1番の目的は、海外において日本と同等以上の日本語での学習をのびのびと行う場を提供することです。

一方、本学園を含め、海外の日本人学校ではほぼ例外なく、英語（または他の外国語）の更なる充実を望む声が絶えません。たとえば、ニューヨーク育英学園を卒業する子どもたちは、その後の進路として現地校に通うか、ほかの日本人学校に通うかの選択を迫られます。現地校を選択した場合、現地校の学習に耐えうる英語力の習得は非常に大きな課題です。

子どもたちが母国語（日本語）そして母国（日本）の文化を十分に会得した上で、他国の言語・文化・社会をも理解できる人間に育てて欲しいと願う保護者にとって、子どもたちをどのような教育機関で学ばせるかは、特に海外に住む場合、非常に重大な課題となっています。たとえ現地の学校に入って外国語が流暢に話せるようになっても、母国語（日本語）をメインにした質の高い教育を受けなければ、国際社会に通用する人間としては評価されにくいでしょう。逆に言えば、たとえ日本語が流暢に話せても、帰国子女としてふさわしい外国語能力を身に付け、また滞在国の文化・社会知識を体的に身に付けなければ、やはり国際人として活躍する土台作りの時間を無駄にしてしまうこととなります。

日本では、試験の点数がよくても実際に英語を使えない（英会話の苦手な）人々が多いことが、長年問題となっており、文部科学省の最優先課題の一つになってきています。その対策の一環として、文科省は2011年度から小学5、6年で英語を必修化とし週1日のペースで外国語（主に英語）の授業が導入されてきており、「使える英語の習得」が目指されています。また、日本の文部科学省は、2013年末に、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた新たな英語教育改革案を発表しました。これによると、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ることを目標としています。

このような背景の中、NY育英学園では日本語による教育をメインにはしてはいますが、日本で英語を学ぶよりも、英語圏で教育を受けるにふさわしい、質と効率のより高い英語教育が求められているのが現状です。したがって、今私どもに求められているのは、「日本語による学習を保証しつつ、いかに英語力も高めていくか」という非常に難しい課題であると考えます。

現在NY育英学園全日制には、在園中に日本に帰国する子、学園を卒業し現地中学に進学後日本帰国する子、そのままアメリカを母国として歩いていく子など、将来の進路がさまざまな子どもたちが学んでいます。さらに近年は、アメリカやイギリスなど海外で生まれ育ったバイリンガル児童（家庭で日本語・英語双方を母語とする児童）が増加

すると共に、現地校に編入する移行段階のステップとして学園のバイリンガル教育を選んだり、逆に日本に帰国する前に日本語や日本式の学園生活に慣れるステップとして学園を選んだり、過去の言語環境が違う子どもたちが一緒に学ぶようになってきました。

こうした流れを受け、学園では、これまで授業の目標としてきた「英語の授業を楽しみ、英語が好きになる子どもたちの育成」から一歩進み、日本での英語教育事情、現地での英語教育事情などを考慮しながら、帰国後、卒業・編入後、といった将来に必要な英語能力を子どもたちが身に付けられるよう、新たなカリキュラムの開発に取り組んできました。

まず、NY育英学園では、その地利を生かし、創立当初より、アメリカ人の講師によるダイレクト・メソッドを導入しながら、日本人とアメリカ人のスタッフが一緒になって、子どもたちが楽しみながら、無理なく必要な英語力を身に付けられるよう、プログラムの充実にも長年努力してきています。また、NY育英学園の児童・園児は、入園当初は英語初心者であることがほとんどですので、まずは英語に慣れ親しませることに重点を置き、幼児部よりアメリカ人の講師による「英語遊び」という形で英語教育を導入しています。そして、小学部ではそれを基礎に、子どもたちを英語習熟度および学年を考慮したレベルに分け、7人の英語教師による本格的な英語教育を行なっています。

また、子どもたちの意欲あるいは現地校への編入を考えている場合など、英語力を急速に伸ばしたい子どもたちのために、アフタースクールプログラムにてESL（幼児部・小学部）を開講すると共に、2009年度より、近接する語学学校りんごラーニングセンターにて、さまざまなニーズに合った英語力強化プログラムを開講しています。

さらに、NY育英学園全日制では、2011年に週10時間のオリジナルカリキュラム「NY育英クロスメソッド」を導入推進し確実な効果をあげてまいりました。また、2017年度からは、早期の英語教育を求める声に応え、幼児部（年少・年中・年長）の英語の時間も増加させ、その効果を上げつつあります。



幼児部の英語カリキュラム

幼小一貫のNY 育英学園全日製部門幼児部では、バイリンガル教育を推進していく上で、『第二言語獲得のためには母語が重要である』という理論に基づき保育活動を行っています。つまり、「日本語による活動」をメインにした保育の中で母語を育み、徐々に、子どもたちが楽しく英語に慣れ親しむことを目的に、アメリカ人英語講師と共に、毎日英語での活動を行っています。

また、2017年度からは、バイリンガル児育成には幼児期のバイリンガル環境が重要であることを受け、幼児部（年少・年中・年長）の英語の時間も増加させ、その効果をあげつつあります。

さらに2018年度に試験導入した週に一度の「言語選択制の日」を2019年度より本格導入しました。この日は、子どもたちがその月のテーマを「英語」「日本語」のいずれかのクラスを選択することができ、よりニーズに合った学習機会を提供できるようになりました。

全日製幼児部英語教育の目標

「英語に親しむ」⇒「会話」を中心とした言語活動

- 日常生活での簡単な会話ができる
- 身の回りのものを英語で言える
- 英語のリズム・音に慣れる

プリクロスメソッド

<2016年度以前>

NY KUEI

Pre-Cross Method



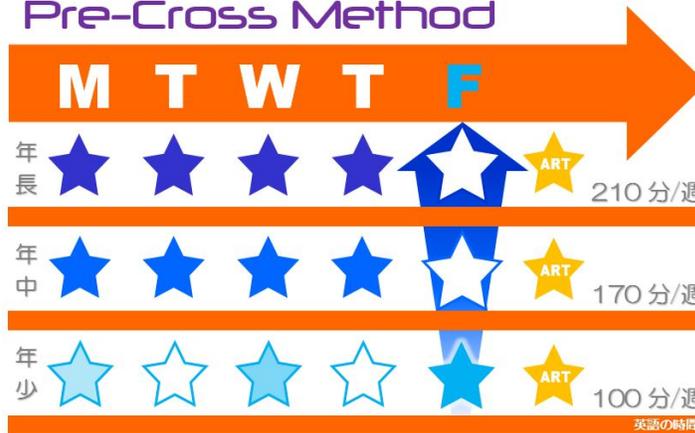
幼児部英語科では、子どもたちが、ゲーム、歌などを通して「聞く」「話す」活動を中心に、ネイティブの英語講師と共に、楽しく英語に慣れ親しむことを目的に、週に1～2回英語の活動を行ってきました。

英語により慣れ親しむために、朝の英語の時間のほかに、2010年度より、ランチ・昼休みの時間に、ネイティブ英語講師がアシスタントとして入り、英語でお話をしたり一緒に遊んだりする時間を設けてきました。

また、ハロウィーンパーティや年末お楽しみ会など、アメリカならではの季節の行事に関連する歌の練習やアクティビティを行うことで、子どもたちの異文化に対する親しみや関心を育てることに努めてまいりました。

<2017 年度以降>

NY IKUEI
Pre-Cross Method



5 歳児：
月～木：英語 30 分
金：バイリンガルの時間 90 分

4 歳児：
月～木：英語 20 分
金：バイリンガルの時間 90 分

3 歳児：
月～金：英語 20 分、朝の自由遊び

※これらの他に英語の先生とのランチ&自由遊びと英語アートの時間があります。

2017 年度からは、英語の時間を増やし、毎日英語の時間を設けると共に、各クラス月 1 回英語でのアートの時間を設けたり、年長と年中は金曜日にそれぞれ 90 分のバイリンガルの時間を設けるなど、小学校からの金曜日英語の日の準備過程を設けることで、幼児部のうちから英語での生活に慣れることを目標とします。

朝の英語の時間では、子どもたちの発達段階を考慮しながら、身の回りのものや自分のことについて話をしたり、季節の行事に関わる言葉を練習したり、歌やさまざまなゲーム、アクティビティを行いながら英語に慣れ親しんでいきます。

また、英語力としては、英語のリズム・音に慣れ、英語の先生の言っていることが大体「分かる」、英語の質問に対して英語らしい発音で「答える」ことができることを目指します。さらに、アルファベットや簡単な語を「読む」という要素も徐々に取り入れ、5 歳児は小学 1 年生への進学も視野に入れて、アルファベットを「書く」練習も行います。

金曜日のバイリンガルの時間では、子どもたちが英語での園生活に慣れ親しめるようにすることを目的に、アメリカ人の先生が普段の朝の会や昼食・帰りの会をリードするほか、様々な活動に日本人の先生のアシスタントとして入り、英語でサポートしますので、子どもたちは日本語と英語のシャワーを一緒に浴びることになります。

また、園児たちと講師とのコミュニケーションを円滑に図るために、英語科のバイリンガル日本人講師やクラス担任などもサポートしています。



小学部の英語カリキュラム

旧カリキュラム <小学部開設時～2010 年度> 毎日1コマ（週5コマ）の英語学習

ニューヨーク育英学園では、1989 年全日制小学部開設当初より、すべての学年において毎日1コマ（月～金）の英語の授業を取り入れるなど、日英バイリンガル教育に力を注いできました。

児童は、英語力に応じてクラスを3～4段階に分かれ、最上級のクラスは Language Arts(LA)クラスとし、現地校でも使用されている教科書を使って学習するなど、児童の多様なニーズに応えるよう努めてきました。また、毎日の学習に加え、学期ごとの学校交流会（ニュー・フレンズデー）や、学園祭での英語劇にも取り組んできました。

また、学園では実用英語技能検定（英検）の準会場運営を経て、長年米国 NY 公開会場の運営を任される中、全日制小学部児童にも積極的に英検の資格取得を促し、毎年（5～準1級）合格者を輩出してきました。

新カリキュラム <2011 年度～> 金曜日英語の日導入による週 10 コマの英語学習

学園では、日本での英語教育重要度の高まり、保護者から英語教育に対する学園への期待の高まりを受け、日英バイリンガル教育を一層推進するため、英語の授業数をそれまでの倍の 10 コマに増やし、英語で英語やその他の教科や様々な総合学習を行う「金曜日英語の日」を導入いたしました。結果、月～木曜は毎日1コマの英語学習を行い、金曜日は英語科教師が担任として、授業はもちろん、朝の会から帰りまでも含め全て英語で行うという金曜日英語集中プログラムの二本立てによる、他にないユニークな複合型カリキュラムを確立し、それを『NY 育英クロスメソッド』と名付け、その効果をあげつつあります。

また、このプログラムの導入により、これまで現地校との比較では 15%だった英語または英語で学ぶ時間数が、約 30%まで増えました。

年度	週当たりの時数	学校で英語に触れる時数
2010 年度以前	日本語による教科学習 27 時数 + 英語 5 時数	5 時数
2011 年度以降	日本語による教科学習 24 時数 + 英語 10 時数	10 時数
*US 現地校平均	英語 (Reading, Writing, LA) 20 時数 + その他教科約 15 時数	35 時数



日本語との両立

日英両語のバイリンガル教育を推進するために、日本の文部科学省が定める新学習指導要領に従った年間のカリキュラムを、各学年において完全実施しつつ、本校ならではの多種多様かつ独創性あふれる学習活動も展開。それに加えて、レベルの高い英語学習活動を実施しています。結果子どもたちは、週3分の2を日本語、3分の1を英語で学習します。

これを可能とするため、NY 育英学園全日制小学部では、2011 年度より、火曜日と木曜日の授業時数を1コマずつ増やし、**日本語での各教科必修履修数を押さえつつ**、児童に負担を与えることなく英語のコマ数を増やすことに成功しました。

■2010 年度までの学習時数

(○日本語での教科学習 ■英語)

	月	火	水	木	金	
1	○	○	○	○	○	6
2	○	○	○	○	○	7
3	○	○	○	○	○	6
4	■	○	○	○	○	7
5	○	○	○	○	○	6
6	○	○	○	○	○	7
7	○	○	○	○	○	6
						32

教科	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	9	9	7	7	6	6
社会			3	3	4	4
算数	5	5	5	5	5	5
理科			3	3	3	3
生活	3	3				
音楽	3	3	2	2	2	2
図工	4	4	4	4	4	4
家庭						
保健体育	3	3	3	3	3	3
英語	5	5	5	5	5	5
合計	32	32	32	32	32	32

■2011 年度「金曜日英語の日」導入以降の学習時数

(○日本語での教科学習 ■英語および英語での教科学習)

↓音楽・図工・体育は金曜日英語の日の中で英語でも学習

	月	火	水	木	金	
1	○	○	○	○	■	7
2	○	○	○	○	■	7
3	○	○	○	○	■	7
4	■	○	○	○	○	7
5	○	○	○	○	■	7
6	○	○	○	○	○	7
7	○	○	○	○	○	6
						34

教科	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	9	9	7	7	6	6
社会			3	3	4	4
算数	5	5	5	5	5	5
理科			3	3	3	3
生活	3	3				
音楽	2	2	2	2	2	2
図工	2	2	2	2	2	2
家庭						
保健体育	3	3	2	2	2	2
英語	10	10	10	10	10	10
合計	34	34	34	34	34	34



NY 育英クロスメソッド

クロスメソッドとは何か？

NY 育英クロスメソッドとは、毎日1コマの英語学習と金曜日英語集中プログラムの複合型カリキュラムによる、基礎と応用のクロストレーニングを特徴とする、まったく新しい、本学園独自のバイリンガル教育メソッドです。



「クロスメソッド」という名前は、1週間の中の時間流れをとらえるならば、横軸（毎日の英語学習）と縦軸（金曜日英語集中プログラム）と縦横にまたがる十字（クロス）型となることから名づけられました。

・ **横軸**：[基礎力定着型学習]

月～木曜日は、4・5・6年合同クラス(5～6クラス), 2・3年合同クラス(5～6クラス), 1年(2～3クラス)の少人数(3～10人)レベル別クラスで、英語の基礎力を毎日コツコツじっくりと学習します。

・ **縦軸**：[応用・実践型学習]

金曜日は、学年を考慮した縦割りレベルクラス(6クラス)で、Vocabulary, Spelling, Grammar, Reading, Conversation, Writing などを強化するほか、現地校のように算数、理科、社会などを英語で学習します。

なぜクロスメソッドなのか？

学習効果を上げるには、基礎学力の定着と応用・実践の2つの要素のバランスが取れた教育が理想とされます。この定着（毎日1時間の英語学習）と応用・実践（金曜丸1日英語による教科学習）の2つの目的を達成できるのが、NY 育英学園のクロスメソッドなのです。このメソッドにより、スポーツのトレーニング（日々の練習と週末の試合）のような英語学習効果を得ることができると学園では考えています。

週の流れ

Time	月～木	金
9:00-9:10		朝の会（学年別）
1 時間目 9:10-9:50		金曜 AM プログラム （英語力強化） Intensive English Learning Program Vocabulary, Spelling, Phonics, Pronunciation, Grammar, Writing, Reading, Conversation, Discussion, Presentation （6クラス：縦割り-学年考慮レベル別）
2 時間目 9:55-10:35	英語 2, 3 年 (5-6クラス)	
3 時間目 10:55-11:35	英語 4, 5, 6 年 (5-6クラス)	
4 時間目 11:40-12:20	英語 1 年 (2-3クラス)	
昼食・昼休み		
5 時間目 13:00-13:40		金曜 PM プログラム （英語による教科・総合学習） Integrated Subject Study Social Studies, Science, Math, P.E, Art, Music （レベル別または学年別クラス）
6 時間目 13:45-14:25		
14:25-14:40		帰りの会（学年別）

毎日の英語学習（月～木）Daily English

月曜から木曜の4日間、毎日1コマ（40分）の英語の学習を行います。ESLの各クラスはESLの教科書を使って文法・語彙・Phonics・会話を中心に、またバイリンガル児童は、Language Arts (LA)クラスとして、アメリカの教育改革の一環として作成されたCommon Core State Standard Initiative（全米共通学力基準）に基づきながら、現地校と同じ教科書を使って、「読む・聞く・書く・話す」の4技能をバランスよく学びます。

Common Core State Standard Initiative

http://www.corestandards.org/assets/CCSSI_ELA%20Standards.pdf

金曜英語一日集中プログラム

金曜日は、朝の会から下校まで、英語科教師が各学年およびレベル別クラスの担任として指導し、丸一日現地校のように、英語を使って様々なことを学習します。いわば、週末の日本語補習校のように、週に1回現地校での学習を仮体験するイメージですが、あくまでも英語のレベルを基にしたクラス編成で、無理なく楽しく英語を学習できるプログラムとなっています。

金曜 AM プログラム（英語力強化）

午前中は月～木のクラスレベルを元に、学年を考慮したうえでのレベル別クラス*（6クラス）を編成し、それぞれのレベルにあった「聞く、話す、読む、書く」の英語学習技能を学びます。*クラス構成は年度・学期により変わることがあります。

語彙・文法・会話表現・リーディング、読解・ライティングなどを集中的に学ぶほか、劇や歌、ゲームの中で身体を使って楽しみながら自然に英語を使う経験を積み重ねます。また、上位レベルのクラスでは、時事ニュースのマガジンなどを読みながら、自分の意見を述べるディベートの練習も行います。さらに、現地校の社会、理科、算数の教科書を使用し、それぞれのレベルに応じて、段階的に教科の学習を進めていきます。語学のスキルだけでなく、英語を通して学ぶ内容を重視しています。

金曜 PM プログラム（英語による教科・総合学習）

<2011—2013 年度>

「金曜1日英語の日」導入最初の3年間は、毎回テーマを設定し、テーマに関連した語彙や基礎知識の学習を午前のプログラムから取り入れ、午後のテーマに沿った総合学習につなげました。テーマは発達段階・知識・英語レベルを考慮し、季節や行事に合ったものや、科学・社会・歴史の分野にも踏み込み、毎回の金曜日を新鮮な学習の場とすることに努めました。午後の総合学習では、映像を使った学習やアート活動、また学習した知識をクイズにしてグループ対抗戦をするなどのゲーム要素を取り入れながら、英語を使って身の回りの様々なことを学ぶ楽しさを味わうことを目標とした活動を行いました。また、高学年上位レベルのクラスでは、テーマに沿ってリサーチしたことをまとめ、ポスターを制作したり、発表したりすることを主な活動としました。

1. USの季節の行事に合わせたテーマ
2. 全校遠足や各学年の校外学習に合わせたテーマ（日本語の授業とのタイアップ）
2. アメリカの学校のカリキュラムや理科・社会などの教科に基づいたテーマ
4. その他、各界で活躍している人を招いてのワークショップ

<問題>

- 学年，レベル別に統一したテーマを設定すると，選べるテーマに制限がかかる。
- LA のクラスの児童などは，英語以外の教科も現地校のテキストを使用し，カリキュラムに沿った積み重ね的な学習が必要。

<2014-2019 年度>

金曜英語の日導入から3年後，新たなステップとして，高学年・上位レベルのクラスになるにつれ，より現地校の一日のスケジュールに近いカリキュラムになるようにし，英語だけでなく，現地校の社会，理科，算数の教科書を使用し，午後もアカデミックな学習の時間とすることにいたしました。

LA だけでなく，ESL クラスのレベルも現地校の学年レベルと対応させることで，英語の基礎力だけでなく，社会，理科，算数などの教科学習も，英語のレベルに応じて段階的に学習できるようにし，ある面現地校よりも効果的な学習環境を作り上げることに成功しています。（現地校では，英語の時間になると，ESL レベルの児童はクラスを離れて複数のレベルが混在する ESL クラスに移動し，あまり段階的ではない英語の授業を受けることとなります。また，理社などの教科のクラスでは，学年のクラスに戻り，自分の英語レベルよりもはるかに難しい内容についていけないといけません。）

こうしたレベルにあった英語学習および，英語での教科学習を取り入れることにより，中上級レベルになって英語にも少し自信がついた子どもたちが，現地校に編入する時も，より安心してソフトランディングできる環境づくりに成功しました。

<2020 年度以降>

2020 年度より学年別活動型プログラムを取り入れています。Arts & Crafts, Science, P.E & Games の3分野を取り上げ，学齢に合った内容で，アート作品の制作や科学実験（STEM Projects），体を動かす活動などの Hands-on Activity を通じて，クラスメイトと協力しながら楽しく英語を学習できるプログラムを導入しました。

<金曜英語の日の各教科学習導入の際の留意点>

• 低学年・初級レベルクラスでは，他教科の学習の中でもゲームなどを取り入れながら，英語を使って身の回りの様々なことを学ぶ楽しさを味わうことを目標とした活動を積極的に行う。

社会 (Social Studies) 1～3年までは，コミュニティや職業について学ぶなど，日本の社会科の内容と重なる部分が多く，ESL の学習とも重なる部分が多いので，適宜取り入れていく。アメリカのカリキュラムでの社会科学習は，4年がアメリカの地理（地域の歴史を含む），5年がアメリカの歴史となっている。日本の教科書では習わない内容だが，基本知識と社会科学習のアプローチの中で学ぶこと（原因と結果，歴史上の変化の経緯を理解し，分析力をつけること）に重点を置いた学習を行う。また，英語上位クラスは，アメリカ永住予定者も多いので，将来現地校に編入した時の学習がスムーズになるよう，金曜英語の日のカリキュラムの中で，アメリカの地理・歴史の学習を積極的に取り入れていく。

算数 (Math) 英語が分からなくてもできる，単なる計算問題などは扱わないが，文章問題は，英文読解の応用学習としても扱っていく。またアメリカならではの算数学習のユニークなアプローチは，リスニング・思考力の育成になるものもあるので，適宜取り入れていく。

理科 (Science) 日本の理科の内容と重なる部分が多いので、適宜取り入れていくが、危険を伴う実験器具を使うような活動は行わない。

体育 (P.E.) ゲームのルールを英語で学習したり、動きの指示を理解したり、チームメイトと英語で声を掛け合うことで、子どもらしい会話力と身に付けること。また、臆せず自然に大きな声で英語を発する経験を積むことで、英語を普段の生活で使うことに自信をつけさせることを目標とする。

音楽 (Music) 特に低学年・初級レベルのクラスにおいて、積極的に英語の歌を取り入れることで、英語の自然な発音やリズムに慣れさせる。中・高学年あるいは中上級のクラスでは、アメリカの同年代の子どもたちが聞いているようなポップソングなども取り入れ、学校の外での現地の子どもたちに触れあったときも、共通した話題が持てるようにする。

その他

- ・定期的に季節の行事などテーマ学習も取り入れていく。
- ・金曜英語の日において、ハロウィーンパーティ、New Friends Day(旧 Bilingual Day : 現地校との交流会)を開催する。またそのための練習や学園祭の練習なども行う。

クラス分けについて

NY 育英学園全日製小学部英語科では、子どもたちそれぞれの学年およびレベルに合った環境で英語の学習ができるよう、統一的な英語カテストを実施し、1～6年生を、ESL 6～7レベル、バイリンガル6～7レベルにレベル判定した上で、それぞれ月-木のクラスと金曜クラスに分かれ学習しています。

クラス分けは、学年末または年度始めの進級テスト (Placement Test) および、学期末の Semester Test、授業での評価など4技能 (聞く、話す、読む、書く) の向上を総合的に判断し、学習効果が高まるようなクラス配分を目指します。

各学年とも、英語を始めて習う児童は、ESL Pre のクラスに入り、日本人バイリンガル講師の指導のもとで英語の基礎学習をし、1, 2 学期で次のレベルに上がれるよう指導します。

レベルとクラス編成

毎日の英語 (月-木クラス) ⇒別冊 English Curriculum Benchmark 参照

月～木曜日は、英語カテスト (Placement Test) によって判定されたレベルを元に、高学年 (4, 5, 6年 : 5～6クラス) 中低学年 (2, 3年 : 5～6クラス) 1年 (3クラス) のクラスに分かれ、毎日1コマ (40分) 少人数編成 (3～10人程度) によるレベル別クラスで、じっくりとそれぞれのレベルに必要な英語力を鍛えます。(人数により一部レベル合同の複式クラスとなります。また、年度・学期によって合同にするレベルも変更になります。)

LA (Language Arts) クラス : 6レベル (1, 2, 3, 4, 5, 6)

両親の一方がアメリカ人であるなど、家庭で英語を使用することが多く、現地校の同学年の英語のレベルにほぼ達している子、あるいはNY 育英学園ですっと学習しESLの過程を終了した子 (例として、小学生高学年では英検2級・準1級合格レベルなど) や現地校からの編入で現地校のESL クラスを卒業している子など、バイリンガル児童は、Language Arts (LA) クラスで、現地校と同じ教材を使用して学習します。
※2年生であってもLA1になったり、1年生であってもLA2のレベルになることがあります。

(日本式の学年では1年生でもアメリカ式では2年生になる児童の場合など)
 ※特に高学年では、混合レベル(LA456など)のクラスになることがあります。その場合は、クラス全体のレベルを総合的に判断して使用する教材を判断します。

ESLクラス: 7レベル (Pre, 1, 2, 3, 4, 5, 6)

日本語を母語とし、英語を第二言語(English as Second Language)とする子どもたちのクラスです。主に日本人家庭の環境に育ち、日常英会話力および現地の学年相当の学習英語力に満たない児童は、ESLクラスで学習します。現在、ESLのレベルは、使用している教科書を基準に6~7レベルに分かれています。

※ESL P~3レベルの文法・語彙は、現地校でのネイティブの5歳くらいまでの児童がオーラルで使用でき、認知できるレベルです。(英検5~3級程度)

※ESL 4~6レベルの文法・語彙は、現地校でのネイティブ2, 3年生くらいまでの児童がオーラルまたは書いて使用できるレベルです。(文法的には英検準2, 2級程度)

■2017年度3学期の場合 毎日の英語のクラス分け

4,5,6年		ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	ESL-5	ESL-6	LA-456
2,3年	ESL-Pre1	ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	LA-2	LA-3	
1年	ESL-Pre1	ESL-1	LA-K	LA-1				



金曜1日英語の日のクラス: 6クラス

金曜日英語の日では、英語の4技能(読む, 聞く, 話す, 書く)を増強するだけでなく、現地校の各教科の教科書なども利用しながら教科学習も行います。そのため、金曜クラスは、月-木のレベル別クラスを元に、より英語の基礎力を付けることが必要なESL初級レベル(ESL-Pre, 1, 2)は学年縦割りのレベル別クラス(A, B), ESL中級以上(ESL3~)は、学年を考慮した合同クラス(C, D, E)の全6クラスに分け、充実の授業を展開しています。

※LAとESLレベルの混合クラス *≒はほぼ同じの意味

ESL2≒LAK, ESL3≒LA1, ESL4≒LA2, ESL5≒LA3, ESL6≒LA4

■2017年度3学期の場合 金曜英語の日のクラス分け

	クラス A		クラス A2		クラス C1			クラス E	
4,5,6年		ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	ESL-5	ESL-6	LA-456	
2,3年	ESL-Pre1	ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	LA-2	LA-3		
1年	ESL-Pre1	ESL-1	LA-K	LA-1				クラス D	
			クラス B	クラス C2					

英語力評価と比較

ESLクラスと現地校(LA)クラスとの相関

各ESLクラスの学習範囲を現地校のLanguage ArtsのReadingの語彙レベルと比較すると、大体下記ようになります。

NY 育英学園	ESL Pre	ESL 1	ESL 2	ESL 3	ESL 4	ESL 5	ESL 6
現地校レベル	PreK	PreK~1stG	K~1stG	1st G	2nd G	3rd G	4th G

※なお、ESLクラスで扱うReadingの語彙レベルは、現地校との相関では上記ようになりますが、同じ語彙でもESLでは認知レベルであるのに対し、上記の現地校レベルは、自由に読み書きできる応用レベルの語彙になります。逆に言えば、現地校でのネイティブの児童がオーラル(日常会話)で使用でき、認知できる単語・文法は、上記よりさらに2レベルくらい進んでいます。つまり、オーラルレベルでは、ESLクラスで扱う会話表現・語彙は、ESL P/1(ネイティブ2歳), ESL 2(3歳), ESL 3(4歳), ESL 4(5歳), ESL 5(6歳)にほぼ相当します。

現地校の学年別習得語彙数目安

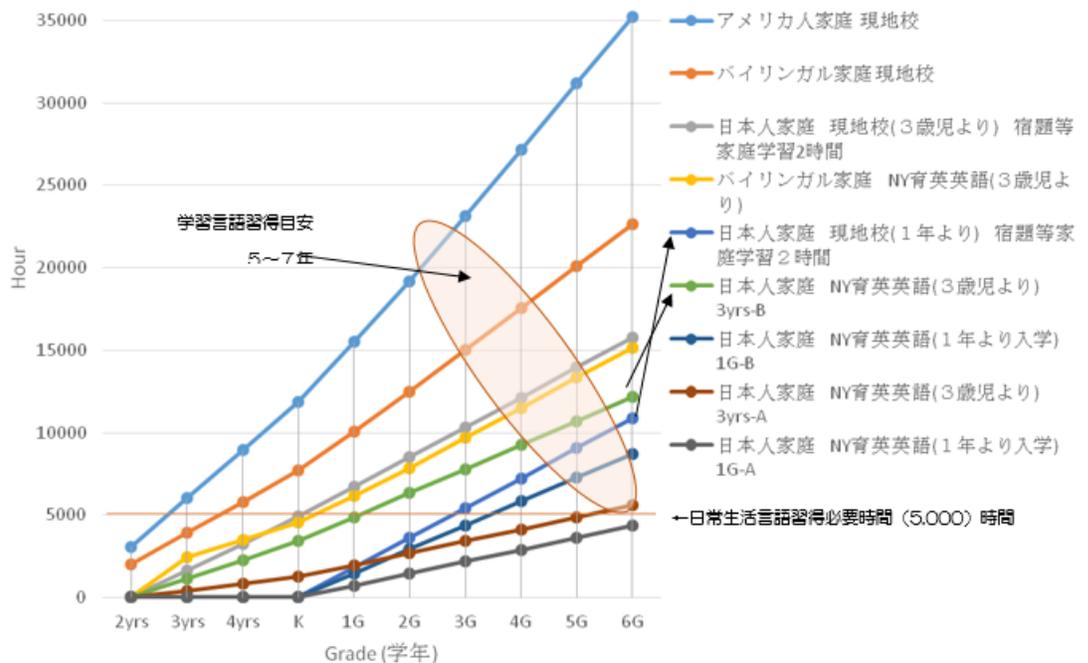
一般的に、日常生活に必要な英語の語彙数は、2,000 語とされています。この語彙数に達するのは、ネイティブの子どもたちが2年生を終了した程度です。また、討論や発表などより高度な学習言語を習得できるのは、語彙が 5,000 語以上に達してからです（現地校4年生以上）。

また、大人の平均表現語彙は高校終了までに学習する約 20,000 語ですが、大人であっても日常の会話（普段の生活の 90%の時間）で使用しているのは、2,000 語程度とされています。

現地校	Words	Phrases	Vocabulary level benchmark
Pre-K	-200		*Students can make themselves somewhat understood and understand slow speech.
K	400-500	150	
1 st G	800-1,000	300	*Students can speak relatively well and unstrained, and can read newspapers and books with the aid of a dictionary.
2 nd G	1,500-2,000	300<	*What they need for day-to-day conversations. During the course of one day students need approximately this amount of vocabulary, and they can take part in serious discussions and understand what is being said at normal speed.
3 rd G	3,000-4,000		*Sufficient for reading newspapers and magazines fluently.
4-6 th G	8,000		*All they ever need. More words are not necessary in order to communicate freely and read all types of literature.
7-12 th G	10,000-20,000*		*More words as Active vocabulary. (Although the average vocabulary is 20,000 words, most people use about 2,000 words for 90% of the time, especially in spoken communication.)
College Graduate	40,000		*Passive vocabulary (words students understand but don't use themselves)

英語学習時間の比較

また、その日常会話に必要な語彙 2,000 語を習得するのにかかる時間は約 5,000 時間とされています。さらに、学習言語の習得となると、ネイティブの子が学校（幼稚園～小学校）で 20,000 時間以上の学習（英語の勉強を始めて5～7年）が必要とされています。日本人家庭で現地校に行っている子どもが日常生活会話に支障がなくなるのに2、3年。学習言語の習得には5、6年かかると言われているのは、こういった根拠があるのです。



質か量か

日常生活言語、そして学習言語の習得に、学習時間の長さだけがモノを言うのであれば、日本人学校で英語を学習する子どもたちがバイリンガルになるというのは、気が遠くなるような話です。NY 育英学園では、子どもたちがまずは英語を好きになり、長い目で英語力を高めていけるように指導すると共に、指導内容の質を高め、さらに**クロスメソッド**を導入することで、短期間でより高い学習効果が得られるよう努力しています。

NY 育英学園の英語教育と英検

NY 育英学園は、英検海外公開会場のうち最大規模の NY 会場の運営を公益財団法人日本英語検定協会から任され、長年に渡り NY 育英学園全日制本校だけでなく、サタデースクール、サンデースクール、アフタースクール各校の児童・生徒たちに英検（実用英語検定）の受験を奨励してきました。全日制小学部でも、毎年約3分の1の児童が英検を受験し、見事合格者する子どもたちが後を絶ちません。

英検の資格を持っていると中学・高校や日本国内外の短大・大学などの入試において、合格判定で優先されたり、内申点に加算されるなどの優遇措置があるほか、級に応じて学校の英語科目の単位として認められるなど、日本国内での英語教育の重要性が高まると共に英検の受験者数も上昇の一途をたどっています。

こうした流れの中で、NY 育英学園全日制小学部でも、在籍児童に英検をはじめ漢検、数検など各種検定の受験者を奨励し、英検受験者・合格者が一層増加しています。日本の高校卒業程度の2級に小学3、4年生が多く合格するようになったと共に、日本の大学生レベルの準1級に合格する子どもたちも増えてきました。

■NY 育英学園の場合の英検取得目安

	ESL P	ESL 1	ESL 2	ESL 3	ESL 4	ESL 5	ESL 6
年目	1	1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6
英検		児童英検 Bronze	5/4 級	4/3 級	3/準 2 級	準 2/2 級	2 級
目標語彙数	250	500	1,000	1,500	2,000	3,500	5,000

	LAK	LA 1	LA 2	LA 3	LA 4 / 5 / 6
年目	1	1	2	3	5,6
英検	5 級	4/3 級	準 2 級	準 2/2 級	2 級/準 1 級
目標語彙数	500	1,500	2,000	4,000	6-8,000

■日本の場合（旧課程）

級	5 級	4 級	3 級	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級
学年(Grade)	中学初級	中学中級	中学卒業	高校中級	高校卒業	大学中級	大学上級
歳(Age)	13	14	15	17	18	20	22-
英語学習年数	1	2	3	5	6	8	10-
語彙数	600	1,300	2,100	3,600	5,100	8,000	15,000

中嶋 裕 さん：

2019年9月全日制3年生に編入。5年生の春に準1級に合格し、6年生の秋には見事1級に合格！



笠間 さん：

2018年4月全日制2年生に編入。4年生の秋に見事準1級に合格！

その他の魅力

多彩な季節の行事とアクティビティー

驚きや喜び、そして体を使って覚えるといった体験に基づいた学習は、より学習効果を高めることができます。NY 育英学園では、時折いったん教科書を離れ、季節の行事に基づいたアクティビティーを取り入れることで、思い出深い体験教育ができるよう努めています。



6月：ウォーターフェスティバル



10月：ハロウィーンパーティ



11月：サンクスギビング



12月：ホリデーパーティ



2月：バレンタインデー



3月：ピニャータ割り

New Friends Day ニューフレンズデー：現地校との交流会

NY 育英学園では、現地校の子どもたちを招いて日本文化を紹介したり、現地校を訪問していろんなクラスに参加させてもらったり、現地校の子どもたちと折り紙のワークショップを行ったりと、長年さまざまな交流会を行ってきました。

交流会の後もお礼のカードを送ったり、ホリデーカードを送ったりと親睦を深めています。マンハッタンの名門校グレースチャーチスクールとは、2009年度から互いの学校を訪問する年二回の交流会の伝統を築いてきています。

こうした交流会で、普段勉強している英語を実際に新しい友達と触れ合う中で使ったり、言葉や文化の違いを越えて、相手の気持ちを読み取り、お互いの思いを伝え合うことの大切さを学びます。また、日本文化を紹介することで、自国の文化を再認識し、誇りを持てるようにするという効果もあります。



マンハッタンのグレースチャーチスクールとの交流



近隣校のアップパースクールとの交流

学園祭の英語劇

英語劇による英語力の向上

演劇は、言葉だけでなく体を使って表現する中で、創造力や表現力を高めることができます。また、個々の創造力や表現力を向上させるだけでなく、実際の発表の場を設け、発表に向けての練習を先生や友だちと話し合いながら進める中で、子どもたちのコミュニケーション力が高められ、相互の人間関係が良好になって、よりよい学校生活が送れるようになるなどの効果も実証されています。それは、日本語だけでなく、英語でも同じことです。普段英語を使って積極的にコミュニケーションすることを苦手と思っている子どもたちにとっては、アメリカ人の先生から英語で劇の指導を受けながら、セリフや演技の練習をすることが、子どもたちの英会話力の著しい向上につながります。

全日制日本人学校でありながらも、いや日本人学校であるからこそ英語教育を重視し、毎日のカリキュラムに取り入れてきたNY 育英学園では、こうした演劇の効果をも早くから見出し、英語教育導入当初より、学園祭において各学年による日本語による劇などの発表の他に、全学年参加による英語の劇や歌の発表の場を設け、バイリンガル教育を推進してきました。

英語科による発表は、小学生全員の参加となるため、子どもたちを学年などのグループで分け、いくつかの違う場面をそれぞれのグループが入れ替わりながら演技をしたり歌を歌ったりします。過去の学園祭では、主にアメリカの文化や歴史、あるいはアメリカを代表する文学作品や人物など、アメリカに関するテーマを選んで発表を行ってきました。40分という発表時間の中で一人一人が英語で台詞を言う機会を設けられるようにするとともに、全学年で英語の歌を合唱したりと、子どもたちにとって思い出深いものになっているようです。

<過去の学園祭での発表例>

- 2007年 Mary Poppins (イギリス児童文学『メアリー・ポピンズ』より)
- 2008年 A Musical Trip Across America (アメリカ各地をフォークソングで紹介)
- 2009年 Games Children Play in America (アメリカの子どもたちの伝統の遊び)
- 2010年 Walt Disney's World of Dreams (ウォルト・ディズニーの伝記と代表作)
- 2011年 Ikuei Vaudeville Show (かつてのアメリカショービジネスの現代版)
- 2012年 高学年 Lucky Charm (タイムマシンに乗って過去の世界各地を冒険)
低学年 When You Wish Upon A Starfish!? (海の生き物たちの世界を冒険)
- 2013年 高学年 Super Mario All Stars Adventure (スーパーマリオの世界を冒険)
低学年 Insect City (Magic School bus に乗って昆虫の世界を冒険)
- 2014年 高学年 Nightmare at the Museum (映画『ナイト・ミュージアム』より)
低学年 Madagascar (映画『マダガスカル』より)
- 2015年 The 60's (アメリカの1960年代の出来事をThe Beatlesの歌とともに紹介)
- 2016年 The Haunted House of Aesop Fables (イソップ寓話とその教訓)
- 2017年 The 80's (アメリカの1980年代の出来事・流行を学年毎に紹介)
- 2018年 Mary Poppins (イギリス児童文学『メアリー・ポピンズ』より)
- 2019年 高学年 How the Grinch Stole Christmas (ドクター・スース作『グリーンチ』より)
低学年 The Lion King (ディズニー映画『ライオン・キング』より)
- 2021年 Twisted Fairy Tales & Fables (おとぎ話や寓話をアレンジして学年別に発表)
- 2022年 高学年 Shrek (映画『Shrek』より)
低学年 Puss in Boots (ヨーロッパ民話『長靴をはいた猫』より)
1年生 Frozen (ディズニー映画『Frozen』よりソングパフォーマンス)

学校と家庭の連携

バイリンガル教育において、家庭と教師との連携は非常に重要なものになります。逆に言えば、この連携と家庭でのサポートがあってこそ、バイリンガル教育は成功に至るといっても過言ではありません。

宿題

宿題は、月～木クラス、金曜 AM クラスの各担当教師から出されます。月～木クラスの宿題は基本的に週に3回以上、ESL クラスでは、1日15～30分以内で終わらせるような内容となります。また、LA クラスでは、毎日の宿題に限らず、リサーチの課題が出されることがあります。

子どもたちには英語用のフォルダーが渡され、そこに宿題のプリントなどを入れると共に、Homework Sheet にどんな宿題をいつまでにやるのかを記入し、宿題が終わった後、保護者の方の宿題終了確認サインをもらうよう指導しています。(低学年・初級レベルでは保護者のサインは必須、上級レベルでは、宿題の提出が滞った場合、保護者の確認およびサインをお願いすることになります。)

家庭でのサポート

子どもたちが楽しく英語の勉強を続けていけるよう、あたたかく励ましてあげてください。また、できるだけ英語に触れる機会を与えてくださいますようお願いいたします。保護者の方たちとの買い物、車や電車での移動の中で目に入るもの全てが生きた英語の学習材料になります。また一緒に本を読んだり、図書館で本やDVDを借りてあげたりしてください。子ども向けの英語のテレビ番組やDVDなども、毎日少なくとも30分くらいは見せてあげるようにしてください。iPadなどのアプリを利用した英語の学習もお勧めします。

クラス懇談会・個人面談

子どもたちの英語力と家庭でのサポートの仕方について、担当英語講師と直接懇談会や個人面談する機会を設けています。

- 1学期：英語クラス懇談会（春の遠足の日）＊希望により個人面談あり
- 2学期：個人面談（秋の遠足の日）
- 3学期：英語クラス懇談会

充実の教師陣

経験豊富な5人のアメリカ人教師、および2人の日本人バイリンガル教師計7名が指導しています。また、人数の多いクラスには、さらにアシスタント日本人バイリンガル教師がサポートすることがあります。

<アメリカ人講師>



Melissa
Lauricella



Jonathan
Szmak



Samantha
Bronster



Margo
Richards



Anna
Ota

<日本人バイリンガル講師>



英語科主任
廣田 千里

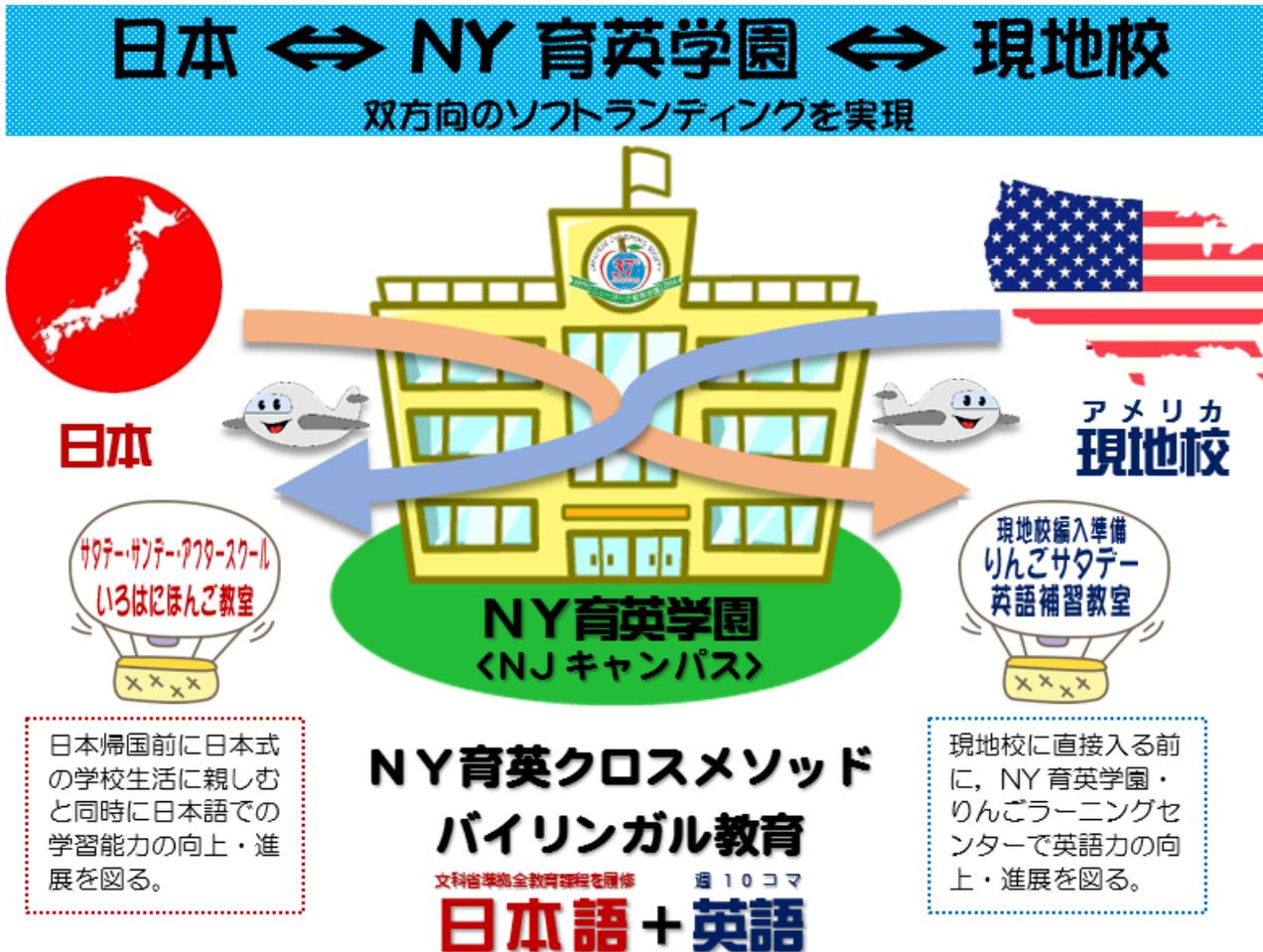


英語科主任補佐
幼児部英語/アフタースクールESL
コーディネーター
山本 聡



英語科アドバイザー
りんごラ-ニングセンター-語学部門
マネージャー
中川 晴美

第二部 双方向ソフトランディングのために



NY 育英学園では、全日制幼児部小学部の他、サタースクール、サンデースクール、アフタースクール、サマーデイキャンプ、りんごラーニングセンターなど、多様な受け皿を用意し、様々なニーズを抱えた家庭の子どもたちのために、学年・レベル別クラスによる日英バイリンガル教育環境を提供しています。

現地校へのソフトランディング

英語を勉強したことがない子どもたちが、日本からアメリカに来ていきなり現地校に入ると、数カ月から数年先生や友だちの言っていることが分からないつらい時期を過ごすこととなります。そんな子どもたちに、NY 育英学園はクロスメソッドによるバイリンガル教育を提供することで、子どもたちが負担なく英語に慣れていくことを応援しています。最初は現地校には行きたくなかった子どもたちも、数年学習するうちに英語に自信を付け、現地校にチャレンジしています。



日本へのソフトランディング

逆に、現地校生活が長かった子どもたちにとっては、急に日本に帰ることになった場合、すぐに日本の学校に慣れることができるのか心配です。そんな子どもたちもNY 育英学園全日制に入ること、英語力を維持しつつ、日本式の学校生活に慣れるとともに、日本語での学習能力を向上させ、日本に帰ってもスムーズに学校生活に溶け込んでいくことができます。



NY育英学園のバイリンガル教育

特別インタビュー企画

ニューフレンズデー(3年生)



現地校
ソフトランディング編



日本

ハロウィンパーティ
(1年生)

NY育英学園
全日制小学部



現地校

&
サタデー・スクール



学園祭の英語劇(2年生)

こばやし みはる

小林 美遥 さん

サタデー・スクール NJ 校 4年生

NY 育英学園では、全日制幼児部小学部の他、サタデー・スクール、サンデー・スクール、アフター・スクール、サマー・デイ・キャンプなど多様な受け皿を用意し、様々なニーズを抱えた家庭の子どもたちのために、学年・レベル別クラスによる日英バイリンガル教育環境を提供しています。特別インタビュー第二弾では、2012年4月にNY 育英学園全日制小学部に新1年生として入学。3年時の2014年秋に現地校に転校すると同時にNY 育英学園サタデー・スクール NJ 校に編入した、小林美遥さんとお母様にインタビューにお答えいただきました。

「NY 育英学園全日制小学部に入学した経緯を教えてください。」

小林(母)：アメリカに転勤になることは約半年前に分かりました。美遥は当時日本で年長児でしたが、NY 育英学園のことを調べて、日本人学校に通わせることを決めました。あまりプレッシャーをかけたくなかったので、特に英語の勉強をあらかじめさせることもなく、こちらにやってきました。」

「入学前に学園が英語教育にも力を入れていることは、ご存知でしたか？」

小林(母)：学園の説明を受けて、丸一日英語だけで学習する日があることを知り、少し驚きました。実は、こちらに実際に引っ越してきてから、家のすぐ近くに現地校があることがわかり、現地校に行かせてみようかと少し迷ったのですが、本人がNY 育英学園に行きたいということで、その気持ちを大切に学園に通わせることにしました。

「毎日英語の授業があるとともに、金曜日は丸一日英語で勉強する日と知って、美遥さんは、どんな気持ちになりましたか？」

美遥：金曜英語の日の最初の日、ちょっとドキドキしました。でも、周りは日本人の友達がたくさんいるし、私がいた初心者クラスの先生は日本人の先生だったので、安心して徐々に英語の勉強にも慣れていきました。

「おとなしめだけれど、いつもとても一生懸命な美遥さん。最初の頃は、英語の授業で分からなかった時や、上手く答えられなかった時、つい涙がこぼれてしまうこともありました。」

小林(母)：育英の1年生は、幼稚園の頃から通っていて、英語の授業にも慣れている子どもたちが多かったため、周りの子たちに追いつきたいという焦りもあったようです。親子で相談して、アフター・スクールのESLクラスを取ることにしました。結構負けず嫌いのところもあるんです。

「毎日の英語の学習の中で、メキメキ英語の基礎力を付け、2年生の時には英検5級に合格。3年生の夏には4級も合格しました。そして、その夏に現地校への転校に踏み切ったわけですが、きっかけは何でしたか？」

小林(母)：主人の仕事の関係でビザが5年延びることになり、子どもたちの教育をどうするか家族で相談していた時、それまでは育英にいたいと言っていた娘が、現地校に行ってみたいと言いだしたんです。

「英語にもちやうど自信がついてきた時だったのかな？」

美遥：はい。育英の英語のクラスが上がって、毎日聞いているネイティブの先生の英語がどんどんわかるようになってきて、もっと英語を勉強したいと思うようになりました。

「3年生の2学期に、現地校の新3年生として編入しましたが、最初はどうでしたか？」

小林(母)：最初の1週間は慣れずに辛かったようですが、1週間経ったら、ケロツとして、朝「行ってきまーす」と元気に登校するようになりました。

「今は、現地校でどんな勉強をしていますか？」

美遥：今はまだESLのクラスも取っていますが、ホームルームのクラスの子たちと一緒に、Language Arts や Math, Science, Social Studiesなどを

学んでいます。やっぱり Language Arts の英語は難しいですが、育英の金曜英語の日で Math や Science, Social Studies の勉強をしたことやいろんなゲームをする中で覚えた単語が役立っています。

小林(母)：最初の3、4カ月は、話は大体わかって自分の言いたいことを上手く伝えられないもどかしさに苦しんでいたようです。宿題もたくさんあって、終わらせるのが一苦労でしたが、年が明けてからは私に聞きに来ることも少なくなり、自分でさっさと終わらせられるようになりました。

「ご家庭では、どういうことに心がけていらっしゃいますか？」

小林(母)：毎日学校では英語漬けの生活を送っているため、家に帰ってからは日本語での語らいの時間を大切にしています。日本語を逆に忘れてほしくないため、転校してからはNY 育英学園サタデー・スクール NJ 校に通わせています。

「今後、どのようにして日本語と英語の両立を図らせたいとお考えですか？」

小林(母)：数年後、日本に帰国することが決まったら、また育英学園に戻って、日本に帰る前に日本語での授業に慣れさせたいと考えていますが、まずは、本人がそうしたいという意思を大切にしたいと思っています。

「NY 育英学園での学校生活で、よかったと思うことは何ですか？」

美遥：現地校では、育英の学園祭のように、毎日劇の練習をして、大きな背景画を描いて、衣装を着てたくさんの人の前で演じるようなことや、宿泊旅行などが無いので、それが懐かしいです。

小林(母)：本人がやりたくて育英の放課後のダブルダッチクラブには今も通っていますが、チームで目標に向けて頑張るといって、チームワークと和の心も学んでいるようなので、学園が提供してくれる様々な機会を利用して、日本人としての心も学び続けて欲しいなと思っています。

「学校の選択に迷っていらっしゃる保護者へのアドバイスはありますか？」

小林(母)：どの学校でどういう教育を受けさせたいかは、周りの環境や家庭の様々な都合で、皆さんそれぞれの考えがあるのだと思いますが、私達は、子どもがそうしたいという意思を尊重したこと、あとはタイミングだったのだと思います。もし子供がずっと育英にいたいと言っていれば、きっとまだ育英に通っていたことでしょう。でも英語力に自信がついてきたある日、ふと子供が自分から現地校に言ってみたいと言いつつ、せっかくなので少しアメリカに暮らすのだから、現地校も体験させてあげたい、そんな親の気持ちもあって、親子の同意のもとに転校に踏み切りましたが、子どもが自分で決意して選んだ道は、本人も本気で主体的に取り組むので、子供がそういう気持ちになるまで待つことはよかったのだと思います。

「NY 育英学園全日制のお友達へのメッセージをお願いします。」

美遥：時々育英での生活が懐かしくなりますが、自分で決めたことなので、今は現地校で頑張っています。みんなも日本語と英語の両方を頑張って、いろんな楽しい行事のある学園生活を楽しんでください。

(NY 育英学園機関誌フレンドシップ 2015年度春号より抜粋)



全日制幼小合同学園祭英語劇(2013)



サマーデイキャンプ



日本帰国
ソフトランディング編

NY育英学園
全日制小学部



日本



サタデースクール入学式

たけはな けいか 竹花 佳加さん

(渡米)3歳～ : 日曜日は日本語で遊ぼう
4歳～ : サタデースクールNJ校
小学1年生～ : サタデースクールNJ校
小学5年生2学期 : NY育英学園全日制小学部

NY育英学園では、全日制幼児部小学部の他、サタデースクール、サンデースクール、アフタースクール、サマーデイキャンプなど、多様な受け皿を用意し、様々なニーズを抱えた家庭の子どもたちのために、学年・レベル別クラスによる日英バイリンガル教育環境を提供しています。今回は、8年間に及ぶ長い現地校生活とNY育英学園サタデースクールなどで週末の日本語学習の生活を送った後、昨年度2学期、日本に帰る前に全日制小学部5年生に編入してきた、竹花佳加さんとその保護者の方にインタビューにお答えいただきました。

＜保護者の方へのインタビュー＞

アメリカに滞在されている間、佳加さんの教育に何を期待されましたか？

いずれ日本に帰国することになるので、日本の文化、言語などを日本にいる子供たちと同じようにきちんと身に付けていながら、アメリカならではの文化、習慣、もちろん英語も同じようにしっかりと身に付けていって欲しいと思っていました。

その教育方針に基づいて、現地校とNY育英学園をどのように活用されましたか？

3歳で渡米し、まずは、NY育英学園の「日曜日は日本語で遊ぼう」に通い、日本の様々な行事や遊びそして日本語を楽しみながら学んできました。その後、サンデースクールへ入り、一年生からサタデースクールへと転入しました。週一回の日本語の学校生活でしっかりとした日本語と日本人として基本的な学校生活を身に付けていきました。

一方、ウィークデーは4歳から現地校へ通い、日本人が一人も居ない中で、学校での勉強の他に、現地校のお友達とのプレイデートや、誕生日会の行き来なども通し、英語を少しずつ自然に身につけていくことができました。

家庭では、どのようなことを心がけましたか？

登校してから下校までは英語の生活ですから、家では日本語だけの生活にし、家族での会話は英語禁止としました。また、日本語の言い方がおかしい時は、その都度直すようにしました。ウィークデーの帰宅後は現地校の宿題で忙しいため、毎朝登校前の20分ぐらい漢字練習の時間と決め、これは欠かさず行いました。

それから、帰宅後の習い事はできるだけ日本語で教えて頂ける先生を探し、一日のうちで英語で過ごす時間と日本語で過ごす時間のバランスをとるように心がけました。

日本帰国前に、学園の全日制部門に編入されましたが、どのように役立ちましたか？

帰国後の日本の学校独特の学習習慣やカリキュラムに慣れるのに役立ちました。特に家庭科は現地校でもサタデーでも無いため、全日制で家庭科という科目を少しでもやることができ、帰国してから戸惑わずに済みました。

現在、日本ではどのようにして英語力を維持されていますか？

スカイプでの英語の授業、地味ながら毎朝のラジオ英会話、現地校の友人とのスカイプ交流、Kindleで購入した英語本の読書などです。

最後に、子どもにバイリンガルになって欲しいと考えている保護者へのアドバイスをお願いします。

子供は、与えられた環境への順応性というのは本当に素晴らしいものがあると思います。一方、英語でも日本語でもどちらかで過ごす時間が増えてくると必然的に多く過ごす時間の方の言語が強くなってきます。すると、その強くなってきた言語で考えるようになり、その言語の方で過ごす方が楽になってきます。楽な方へ楽な方へと流れてしまいますから、できるだけ親としてはどちらかが強くなったり弱くなったりしないよう心がけることが必要だと思います。

一日のうちでの英語と日本語で過ごす時間のバランスを考えて、子供の生活をバックアップするよう心がけたら良いのではないのでしょうか。



全日制ハロウィンパーティー

＜佳加さんへのインタビュー＞

アメリカ滞在中の、現地校、NY育英学園での学校生活で、よかったと思うことは何ですか？

現地校は4歳という小さいうちから通い、多くの友達とたくさん遊んだり勉強できて、楽しく学校に通えて良かったです。自然に英語が話せるようになって良かったです。

NY育英学園では、現地校とは違った学校生活が楽しめ、一週間に一回のサタデーでも友達ができ楽しかったです。また、全日制に通ったので、帰国後の日本の学校生活にすぐ慣れることができて良かったです。

NY育英学園に通う子どもたちへメッセージをお願いします。

日本ではできないことをたくさんして、アメリカでの生活を楽しんで下さい。

(NY育英学園機関誌フレンドシップ 2014年度秋号より抜粋)



NY育英学園のバイリンガル教育

特別インタビュー企画

全日制オンリー編

全日制で日本語も 英語も頑張りました!

～全日制に通い続けながら、英検準1級に合格～

かわへ そうた
河部 蒼太君 NY 育英学園全日制 2015 年度小学部卒業

特別インタビュー第3弾では、2011 年4月にNY 育英学園全日制小学部2年生に編入してからずっと全日制で学び、今年みごと英検準1級に合格して卒業に花を添えた、河部蒼太君とそのお母様にインタビューにお答えいただきました。

まずはしっかり日本語を身に付けさせたい

「NY 育英学園全日制を選んだ理由は？」

母：アメリカに来るので英語を身に付けてほしいとは思いましたが、まだ低学年だったので、まずはしっかりと日本語を身に付けてほしいと思い、現地校ではなく全日制を選びました。その中でも育英を選んだのは、英語の授業が充実していると聞いていたからです。

「蒼太君が編入してきた2011 年度から毎日の英語に加え、丸一日英語で勉強する金曜英語の日が始まりました。」

母：最初はなるのだろうと思いましたが、いきなり現地校でのようにその学年の教科を英語で学習するのではなく、英語のレベル別クラスで勉強することができたので、負担なく楽しく学習できたようです。

NY 育英（全日制）を離れたくない

「そのままずっと全日制に通い、この春晴れて卒業となりました。」

母：途中、せっかくなので現地校に行かせようかとも迷いましたが、本当に学校が大好きで、日本語の授業も英語の授業も楽しくて、英語も毎日勉強できてネイティブの先生ともコミュニケーションできるようになっていったので、このままでも大丈夫だろうと卒業まで全日制的に通うことに決めました。



蒼太：それに、育英では友だちや先生と身近に接することができ、授業もいろいろな行事も本当に楽しくて、育英から離れたくありませんでした。

←ニューフレンズデーでの代表挨拶

とにかく英語が大好き

「最初から英語に興味があって、いつも積極的に勉強していましたね。」

母：入ったばかりの頃、算数や国語よりも英語が好きと言って、私たちもびっくりしました。

「普通の英語の授業の他にも、アフタースクールのESL やりんごラーニングセンターのプライベートチュータリングのクラスで英語を勉強していました。」

蒼太：英語をもっと話せるようになりたいと思ったし、英語のテレビも見ていてどんどん分かるようになって楽しくなったので、もっともっと勉強したいと思いました。

母：テレビといっても Cartoon Network とかですが(笑)。高学年になってからは CNN の Student News など喜んで見るようになりました。英語だったらいいよと家でも1時間くらいは見せてあげています。育英では日本語をしっかりと勉強しつつも英語が充実していてありがたいと思うのですが、どうしても英語に触れる時間が現地校よりは少ないので、少しでも英語に接する時間を増やせるよう心がけています。夏休みはりんごラーニングセンターの英語サマーキャンプや、現地の野球キャンプにも参加しました。やはり興味のあることから英語に触れさせるのはいいのだと思います。

英検が励みになった

「育英に来て1年後には英検の4級に合格、その後2級までとんとん拍子で合格しましたね。英検はどのよう役に立ちましたか？」

蒼太：目標に向かってチャレンジし合格するという達成感があったし、みんなの前で表彰を受けるのが自信になりました。それに英検の勉強をしながら単語をたくさん覚え、文法が整理できて、リーディングや会話力も上がって、クラスも一番上のバイリンガルク

ラスになり、ネイティブの先生ともいろいろな話ができるようになったのがよかったです。

「4年生で英検2級に合格してから、準1級にも挑戦し続け、6年生の冬についに準1級にも合格しました。頑張り続けられた動機は何ですか？」

蒼太：とにかく日本に帰る前に準1級に受かるのが目標でした。それに、将来アメリカに戻って来た時も自信を持って来られるように英語を上達させたかったので、準1級の勉強をして頑張ろうと思いました。あと同い年くらいの現地校の子たちがたくさん準1級を受験していたし、1つ上の全日制的の先輩が2年前に準1級に受かったので、僕でもできると思いました。

日本に帰ってから英語力を どう維持・向上させるかが課題

「近い将来に日本に帰ることになりますが、英語力をどう維持しようとお考えですか？」

母：今はそれが私たちの課題です。日本に帰ってからも英語を勉強し続けて、高校生になる頃にはオリンピックの英語ボランティアをしたいと思うくらいになってほしいです。

「NY 育英学園に通う後輩たちへメッセージを！」

蒼太：育英では、なかなか体験できないことをたくさん体験できるので、それを大切にしていって、日本語も英語も頑張ってください。



学園祭での英語劇、6年生の仲間たちと



NY 育英学園のバイリンガル教育

特別インタビュー企画 その4 全日制オンリー編②

目指せマルチリンガル!

全日制的バイリンガル教育で養った言語吸収力で、
日本語と英語を習得、そして今はフランス語にチャレンジ中!

いしがはら
石ケ原ジュリアン君 NY 育英学園全日制 2017 年度小学部卒業 現サタデーNJ 校中学部
年中すみれ組から小学6年生まで、NY 育英学園全日制で頑張り続けたジュリアン君。音楽・アート・ダブルダッチと多彩な才能を開花させながら、この3月に全日制を卒業。現在は近所のパブリックスクールに通い、9月からは名門私立校への進学が決まっています。そのソフトな人柄ならではの吸収力で、多方面への成長が目覚ましい石ケ原ジュリアン君とそのお母様にインタビューにお答えいただきました。

最初は日本語が出てこなかった

「NY 育英学園との出会いはいつでしたか？」

母：サタデーNJ 校の年中組です。3歳の頃に1年間近所のデイケアに行ったので、すっかり英語が強くなって、日本語が伸び悩んでいました。そこでまずサタデーに入れたのですが、週1回ではやっぱりあまり伸びなくて、全日制で毎日日本語のシャワーを浴びたほうがいいとの先生の勧めもあって、次の学期から全日制に通わせることにしました。

「全日制の年中組に移ってみてどうでしたか？」

ジュリアン：最初の3カ月ぐらいは、自分からあまり話しかけられなくて、友達もあまりできずに、隅っこで一人で遊んでいました。

母：最初の3カ月は日本語をいろいろと聞いて蓄積する時期だったのだと思います。でも少しずつ日本語が出てくるようになって、歌も好きだったので、日本の歌を歌いながら、日本語に慣れていったようです。

ジュリアン：バイリンガルの友達と英語で話したいこともありましたが、できるだけ日本語で話そうと一緒に頑張りました。

母：今は幼児部も毎日の英語の時間ができて、毎日日本語と英語の両方のシャワーを浴びながら、日本語が強い子も英語が強い子も、お互いに学びあえる環境になってきているのはいいことだと思います。

友達と一緒に日本語も英語も頑張った

「ジュリアン君が1年生になった時は、金曜英語の日が始まって2年目の年でした。」



ジュリアン：得意の英語を使って一日過ごせるのは、正直言って開放感がありました。

母：会話は得意だったようですが、読み書きは苦手です。4年生になるまでは英語が伸び悩んでいたようです。

「途中、現地校に移ろうかと悩みましたか？」

ジュリアン：僕は育英が好きで育英を卒業したかったので、全然そうは思いませんでした。

母：ただ、周りの永住組の子どもたちや、育英の英語カリキュラムで英語に自信を付けた子どもたちがどんどん現地校に転校していったので、すごく不安はありました。

ジュリアン：アメリカ人の先生たちから、このまま育英で頑張っていれば、卒業してから現地校に移っても大丈夫と言われ、安心して楽しく勉強を続けられました。

母：アメリカで生まれ育った主人に、英語はいつでもキャッチアップできるからと、卒業まで育英に行かせることを理解してもらったことも大きかったと思います。



バイリンガル児は遅咲きの花!?

「高学年になって、身長と共にいろんな才能が伸びてきたようです。」

母：日本語も英語も4年生を過ぎた頃から急に伸びたようです。(ジュリアン君に向かって) どうして急にできるようになったの？

ジュリアン：僕もわからない(笑)。他にも急にできるようになったことがいろいろあります。

母：バイリンガル児は1カ国だけをしゃべる子どもに比べると、言葉の発達が少し遅いと言われますが、うちは英語、日本語、そしてタイ語が飛び交う家庭だったので、さらにもう一歩遅かったのかもしれませんが。ですが、蓄積期間が長かった分、一気に花が咲き出したのでしょうか(笑)。

クロスメンツドの効果

「育英で英語の最上級クラスにいた Julien 君。卒業後すぐに現地校に編入されました。」

母：1年ぐらい学習進度が遅れているんじゃないかとすごく心配したんですが、全然そんなことはないようで、驚いています。

ジュリアン：『君は ESL クラスを取る必要は全然ないよ』と言われ、普通に勉強しています。新しく覚えることはいろいろありますが、育英に卒業までいたことがハンデになっていると感じることは全くありません。

母：週に1回とかではなく、日本語と英語を毎日勉強しつつ、金曜英語の日じっくり英語を使っているんなことを学習できたのが、本当によかったのだと思います。

今はフランス語の勉強に夢中

「今、興味があることは何ですか？」

ジュリアン：フランス語の勉強です。

「エツ！ ちょっと話してもらえますか？」

ジュリアン：“Bonjour je m'appelle Julien...”

母：育英で英語と日本語という全然違う言語を勉強して、言語習得のベースができていますので、フランス語の覚えも早いようです。育英でマルチリンガルになる基礎ができたとも言えるかもしれません。

育英にいるチャンスを逃さないで!

「全日制に通う後輩たちへのメッセージを！」

ジュリアン：育英では、いろんな体験ができたし、先生たちや友だちがみんな優しくて、家族のように見守ってくれて、本当に幸せでした。それは卒業して学校を離れてみて改めて実感できたことです。

育英に通うみんなには、育英に通えるというチャンスを逃さないで、日々を大切にしたいです。



(NY 育英学園機関誌フレンドシップ 2018 年度春号より抜粋)



アルセーヌ・ルパンになりきる陽己君

NY育英学園のバイリンガル教育

特別インタビュー企画 その5

現地校ソフトランディング編②

将来の夢はハリウッドスター！

全日制的バイリンガル教育で伸びやかな発想力とチャレンジ精神を身につけ、夢への第一歩として現地校へ

ふかせ はるき

深瀬 陽己 君

NY育英学園全日制 2014～18年度幼・小学部 現育英サンデースクール小学3年
年少から小学2年生まで、NY育英学園全日制で過ごした陽己君。どちらかといえば控えめだった陽己君でしたが、伸び伸びと長所を伸ばす全日制的教育方針のもと、友達と楽しい学園生活を送っていました。そんな陽己君が、2018年度夏、大好きな全日制を離れて現地校に編入することを決めました。その心は？ 陽己君とお母様にお話を伺いました。

しばらく英語が全然分からなかった

「NY 育英学園に通うことになったいきさつを教えてください。」

母：はじめはすぐに日本に帰る予定だったので、日本語をしっかりと勉強させようと全日制を選びました。

「アフタースクール ESL クラスを年少の時から取るなど、英語教育にも熱心でしたね？」

母：その頃は幼児部の毎日の英語が始まる前でしたし、アメリカにいる間に英語も身につけて欲しいと思いました。でも中々英語が身につかず、単にジュースが飲めて楽しいゲームもできる時間だと思っていたようです。

陽己：うん、全然わからなかった。アルファベットも中々覚えられなかった。

母：りんごラーニングセンターの土曜英語補習教室にも年長の時から毎週通いましたが、自分から積極的に答えたりするタイプではなかったの、りんごのプライベートレッスンに切り替えることにしました。

英検の勉強で英語に対する姿勢が変わった

「その後英語がみるみる上達しました。きっかけは何でしたか？」

母：意識がはっきり変わったのは、英検の勉強をするようになってからです。目標がないとやらないタイプなので(笑)。落ちたら恥ずかしいという気持ちも出てきたようです。

「プライベートレッスンに切り替えてから、1年生の冬に英検5級合格、とんとん拍子に1年後には準2級まで合格しました。」

陽己：英検の勉強は楽しいし、合格するとプレゼントも買ってもらえて嬉しい。この間はペットのカメを買ってもらった。今は2級の勉強も始めて、単語が難しいけれど、何となく勘で当たったりする。

英語がカッコいい！

「英検は級が上がるにつれ、難しいトピックも出てきますが、いろんなことに興味をもって、積極的に質問するようになりました。」

母：プライベートで、そうした興味を引き出していたかしながら英語を学ぶことができていたのがいいようです。それからハリウッド映画が大好きで、『英語がカッコいい』と思うようになったようです。

「どんな映画が好きなのですか？」

母：SFやアクション、ホラー、最近は現地校の友達の影響でアニメ映画も大好きで、すごくたくさん見えています。好きな映画は何回も見て、その中で自分がカッコいい台詞なども覚えているようです。映画の中で歌も覚えて家で熱唱したりしています。(笑)。

「陽己君の将来の夢は？」

陽己：ハリウッドのアクターか、映画監督。

母：シャーロック・ホームズやミッション・インポッシブルのトム・クルーズなど、コスチュームもたくさん持っていて、家に帰ると部屋でコスチュームに着替えて、役になりきって居間でポーズ取ったりするんです(笑)。

ハリウッドに行って映画の勉強がしたい

「2年生の秋、現地校への転校に踏み切ったきっかけは何でしたか？」

母：2年生の夏は、現地のサマーキャンプにも参加できるくらい英語に自信がついたのですが、まだ全日制に通い続ける予定でした。

陽己：でも、アクターになるんだったら、英語がペラペラじゃないとなれないと言われて、現地校に行こうと決めた。NYは映画というより、ジュリアードがあったりと芸術の街だから、将来はハリウッドに行って映画の勉強がしたい。

母：いつになるかは分かりませんが、夢を実現させてあげたいとは考えています。

現地校で身についた責任感

「現地校での生活はどうか？」

陽己：まだESLだけど、先生が言っていることは結構分かる。自分の言いたい事が時々言えないこともあるけど。

母：私が英語ができないので、アメリカ人の友だちのお母さんとの話やお店でも、『今こう言っているよ』って通訳してくれるんです。現地校の持ち物も自分で理解していないといけないので、ちゃんと先生の話聞いてくるようになりました。育英の時はお便りに日本語で書いてあったので、全然自分でやらなかったのですが(笑)。

全日制で土台ができた！

「全日制に通ってよかったと思うことは？」

母：皆さん現地校に行く時期をいろいろと考えられると思うのですが、うちの場合は、2年生である程度英語が分かるようになって、自分から行きたいと思う気持ちになってから行ったのはよかったと思います。それに、育英で友達がいっぱいできて、心が落ち着いて土台ができた上で現地校に行っているの、早く新しい環境になじめたようです。

陽己：最初は友達があまりいなかったけれど、少しずつ友達ができて楽しくなってきました。仲良しの友達が何人か Could you come to my house? ってプレイデートに誘ってくれる。

「ご家庭では注意されていることは？」

母：日本語もしっかりと身につけていけるように、本を毎日音読して聞かせています。最近では英語の本の方が読みやすいと、日本語の本を中々自分から読まないの、活字を見せながら読むようにしています。

「夢の実現を祈ってます！
ありがとうございました。」



NY 育英学園のバイリンガル教育

特別インタビュー企画 その6

全日制 教師編①

We're on This Journey Together!



Melissa Lauricella 先生

2007 年より 13 年間全日制英語科に勤務され、英語科の重鎮とも言える存在です。教え始めた当時はネイティブ英語教師は 3 人で、日本語の話せる米国人バイリンガル教師はいませんでした。日本語を介さずにいかに ESL 初・中級クラスの子供達に英語を教えるか試行錯誤しながら、その後あらゆるレベルの子供達を教えました。NY 育英学園の英語教育を第一線で支えてきた Lauricella 先生に話を伺いました。

2011 年度にニューヨーク育英学園全日制小学部に英語の新カリキュラム (*NY 育英クロスメソッド) が導入されてから、今年度で 10 年目を迎えます。今回のインタビューでは、現在は学園における英語上級レベルのクラスを主に担当する Lauricella 先生に、これまでの変遷や、先生自身の教育方針、子ども達へのアドバイスなども含めて話を伺いました。さらに、現在 Lauricella 先生の授業を受けている 6 年生の平林哲明君にも授業の様子について尋ねました。(インタビュー記事内 H: Hirota, M: Lauricella, T: Tetsuaki)

Interview with Ms. Lauricella

M: What is the biggest difference in English education at Ikuei since you started teaching here?

M: When I started here in 2007, the English department had only three American teachers. The classes were taught with a mixed level curriculum. I taught my class with the lower level students in mind and would incorporate challenging lessons for the upper level students.

M: That must have been difficult. Would you say the curriculum now is better?

M: The curriculum and department has definitely changed over the years. Now each class is geared toward a specific level. It caters to a detailed level-based program for the student. About ten years ago the school introduced an all-day English program. It is an English intensive program that accelerates the students' language abilities and level. It's called Friday English. I love this program.

M: You teach the highest-level class on Friday. Tell us about your teaching style.

M: Every year, every day, every class is a new experience. I have to first understand the strengths and weaknesses of the students in the class and be creative as to how to format the lessons so all students are excited to learn. I don't just teach my class; my class teaches me how to best present each subject so that they learn the material.

M: Then you'll be surprised how creative students can be in response to that.

M: Yes. If you provide the students with an interesting, relatable lesson they're going to not only learn the material, but want to know more about the subject. During Monday through Thursday, my students learn the foundations of the language and skills such writing and reading. Then on Friday, the class can incorporate these skills in an

interdisciplinary way. So each week I rotate different subjects - Science, History, Art, etc. and relate it to their language learning. For example, when writing a poem, we'd study a particular poet's life to see what's behind their poetry. When we study history, we immerse ourselves in the time period by listening to the music of that period and using primary sources such as letters written by people during that time. I think it's important for students to experience what's beyond the actual textbook. That's how I steer the class. When I plan my lessons, I put myself in the position of the student, not the teacher. How would I want to learn about the particular subject? Would I find it interesting as a student? I look at the subject from the students' perspective. I want them to be excited, but most of all engaged.

M: Many students want to get better at their English and move up to your class. How can they join your class?

M: It's important to grasp the foundation of the language by studying and working hard each day. I think it's important for students to hear the flow, rhythm and intonations of the verbal language. Some ways to do this is by watching English TV programs, such as the Disney channels or join a local youth after school activity, such as a sport or a dance program. But most of all, don't be afraid to speak the language. It doesn't have to be level appropriate. Children absorb new information quickly and easily. In our first-grade class we read books aloud to the students. They hear the words, see the pictures, and it clicks. I can't stress the importance of reading aloud to help students learn a language. Even parents can partake by helping them read at night. We're on this journey together to learn and love the language.

Interview with Tetsuaki

M: How do you like Ms. Lauricella's class?

M: Every time we do projects, Ms. Lauricella makes our class interesting. We just did the Civil War journal project. We wrote journals about what you would do and where you would be if you were in the Civil War. While doing this project, I learned about Abraham Lincoln: how he saved slaves and how he died, and I became very curious.

M: Did you have to do a lot of research outside of class as well?

M: Yes, we did a lot of research at home, but it was fun, so I didn't think it was difficult.

M: Does Ms. Lauricella make you work harder?

M: Yes. Every time she thinks of a new subject, she makes sure everybody will have fun learning it. I'm really thankful to her for that. I think she's the best teacher in my life!



Civil War journal project 発表の様子

Lauricella 先生は新しいことを学ぶときはいつも僕たちが楽しめるよう工夫してくれる」と哲明君は言っています。これはまさに Lauricella 先生の言う、教師ではなく子どもの目線から授業を作るといことのようなのです。一子ども達の強みや弱点をまず把握し、創造的な授業を組み立てていく。子どもが興味・関心を持てる授業ができれば、もっと学びたいと思ってくれる。—Lauricella 先生は、科学、歴史、芸術などの学問分野を語学スキルの向上に結びつけるだけではなく、教科書では語られない実際の資料(手紙やビデオなど)を用いて、英語で様々なことを学ぶ体験型の授業を実践しています。また、ESL から現地校と同じ英語レベルで学ぶ*LA クラスにまで英語力を向上させるためには、まずは基礎となる文法や語彙を毎日積み重ねて学習していくこと、さらに生の英語をたくさん聞き、英語独特の流れ、リズム、抑揚を体得すること、また、絵本などの読み聞かせの重要性も伝えていきます。そして、とにかく間違いを恐れずに英語で積極的に話す努力が大切とのこと。子どもが言語を学び、好きになっていくプロセスを、授業なり家庭なりで手助けするのが教師であり親であることを We're on this journey together. 「私たち(児童・親・教師)皆が共にこの学びの旅をしているのです。」と、Lauricella 先生は締めくくってくださいました。

*NY 育英クロスメソッドでは、毎日の英語の他、金曜日は丸一日英語で現地校のように学習する「金曜英語の日」を特徴とする学園のオリジナル英語教育メソッドです。現在は、学年およびレベルに応じたクラスに分かれ、ネイティブ英語教師 5~7 名、日本人バイリンガル教師 2 名がきめ細かい英語教育を展開しています。

*クラスは第二言語として英語を学ぶ ESL クラス(1~6)と現地校の各学年と同じレベルの英語を学ぶ LA クラス(1~6)に分かれています。学園では LA (Language Arts) は現地校レベルの Reading, Listening, Speaking, Writing を行うクラスという意味で使用していません。

お問い合わせ / NJ キャンパス全日制英語科: 廣田千里



〈お問い合わせ〉

ニューヨーク育英学園 NJ キャンパス

電話： 201-947-4832

E-mail： info.nyikuei@gmail.com